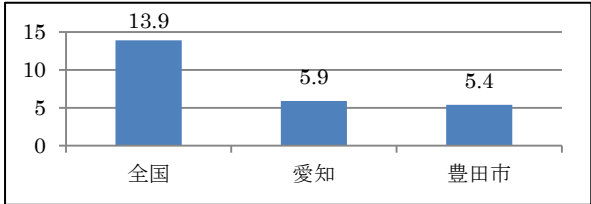
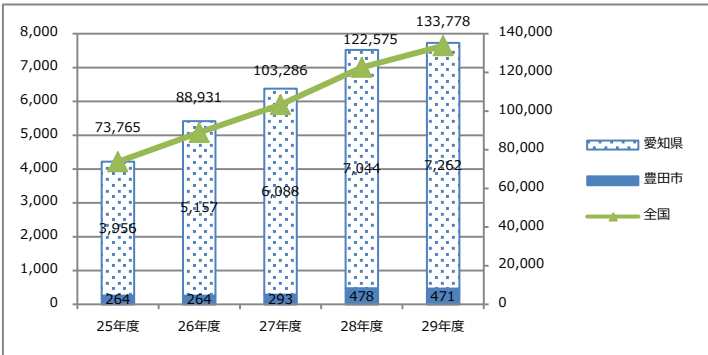


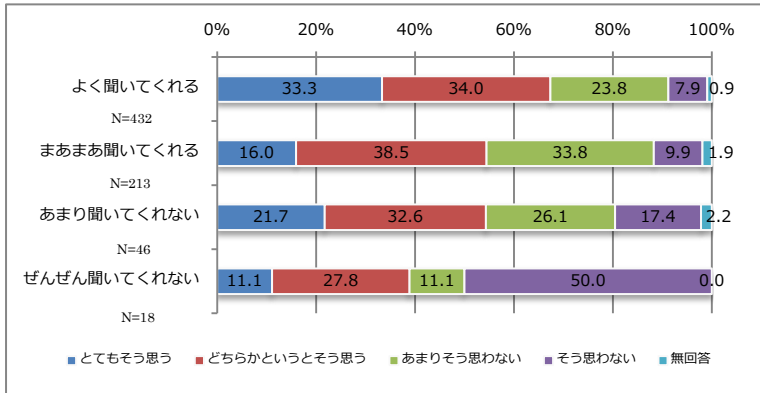
現状	課題	対策																
<p><b>相対的貧困率はあまり高くない</b></p> <p>全国・愛知県・近隣市町に比べ豊田市の相対的貧困率は低い</p>  <p>出典：愛知こども調査（H28）</p> <p>豊田市の貧困率 5.4%より、貧困状態にある子どもは約 4,000 人となるが、身近では貧困の状況が見えづらい</p>	<p>①子どもの貧困問題が身近な問題としてとらえられていない可能性 →子どもの貧困対策の対象となる子どもがどれくらいいるかわからず、支援が必要な子どもを集めるのが困難</p> <p>②児童虐待など、より深刻な問題が引き起こされる可能性 →貧困の背景には、経済的な困難、不安定な就労等様々な問題があり、児童虐待の要因と被る部分が多い</p>	<p>①子どもの権利保障の周知 子どもの貧困への意識の醸成</p> <p>②支援体制の強化、支援制度の充実 支援ネットワークの強化</p>																
<p><b>児童虐待件数の増加</b></p> <p>全国的にも増加しており、豊田市も高止まりの状態</p>  <p>出典：児童相談所での虐待相談件数（厚労省）、児童相談センター相談実績等の概要について（愛知県）、子ども家庭課調べ</p>	<p>心身の不安定、経済的な困難、ひとり親家庭、不安定な就労など、家庭に複合的な困難の存在</p> <p>【児童虐待につながると思われる家庭・家族の状況】</p> <table border="1" data-bbox="974 983 1603 1321"> <thead> <tr> <th>家庭の状況</th> <th colspan="3">あわせて見られるほかの状況（上位3つ）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>虐待者の心身の状態</td> <td>経済的な困難</td> <td>ひとり親家庭</td> <td>育児疲れ</td> </tr> <tr> <td>経済的な困難</td> <td>虐待者の心身の状態</td> <td>ひとり親家庭</td> <td>不安定な就労</td> </tr> <tr> <td>ひとり親家庭</td> <td>虐待者の心身の状態</td> <td>経済的な困難</td> <td>不安定な就労</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：「児童虐待相談ケース分析等に関する調査研究」結果報告書（H28）</p>	家庭の状況	あわせて見られるほかの状況（上位3つ）			虐待者の心身の状態	経済的な困難	ひとり親家庭	育児疲れ	経済的な困難	虐待者の心身の状態	ひとり親家庭	不安定な就労	ひとり親家庭	虐待者の心身の状態	経済的な困難	不安定な就労	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的困窮家庭への支援</li> <li>・ひとり親家庭への支援</li> <li>・保護者の就労への支援</li> <li>・相談機関の充実</li> </ul>
家庭の状況	あわせて見られるほかの状況（上位3つ）																	
虐待者の心身の状態	経済的な困難	ひとり親家庭	育児疲れ															
経済的な困難	虐待者の心身の状態	ひとり親家庭	不安定な就労															
ひとり親家庭	虐待者の心身の状態	経済的な困難	不安定な就労															

現状	課題	対策
----	----	----

### 大人との関わりが子どもの自己肯定感を高めている

大人（親・先生）との会話量が十分であるほど、自己肯定感が高い傾向にある

【お父さんはよく話を聞いてくれますか×自分は価値のある人間だと思う（小学4～6年生）】

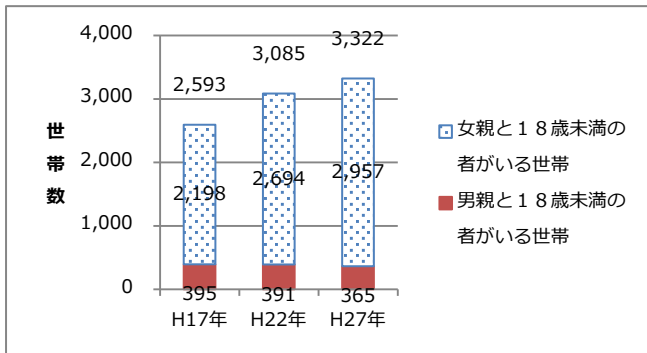


出典：子ども・子育てに関する市民意向調査（H30）

75%の母親が就労しており、前回調査（H25）より8.6ポイント増加

### ひとり親世帯の増加

豊田市におけるひとり親世帯は増加している



出典：国勢調査（H17, 22, 27）

ひとり親（母子）になった時点での末っ子の平均年齢は4.4歳

ひとり親世帯1世帯における子どもの人員は約1.8人

子育て世帯1世帯における子どもの人員は約1.9人

出典：全国ひとり親世帯等調査報告書（H28）国勢調査（H27）

大人（地域）との関わり方の希薄化

地域の行事や活動に参加している割合が5年前に比べて減少

	H25年度	H30年度	増減
小学校低学年	85.2%	82.2%	-3.0 ㊦
小学校高学年	85.1%	72.4%	-12.7 ㊦
中学生	74.5%	74.5%	0 ㊦
高校生	34.4%	38.1%	3.7 ㊦
青少年	21.1%	18.4%	-2.7 ㊦

出典：子ども・子育てに関する市民意向調査（H25, H30）

母親の就労率の増加により、仕事・家事・プライベートの両立や子どもとの関わる時間の確保が難しくなる

①ひとり親世帯の就業状況は正社員44.2%、パート・アルバイト43.8%と非正規雇用も多く、就労が不安定かつ経済的困難な状況に陥りやすい

②家事・育児・仕事をひとりで行うため、精神的負担感の増加

③児童虐待など、より深刻な問題が引き起こされる可能性

→ひとり親世帯の背景には、経済的な困難、不安定な就労、精神的負担等様々な問題があり、児童虐待の要因と被る部分が多い

- ・地域活動団体の支援（青推協等）
- ・子どもの居場所の充実（子どもの居場所づくり事業、子ども食堂等）
- ・家庭教育力の向上

- ・経済的困窮家庭への支援
- ・保護者の就労への支援
- ・生活の支援
- ・必要な支援の充実

